

# グローバル・ヘルス・ガバナンス と 日本の役割

2020年8月25日

JICA 上級審議役

(人間の安全保障と国際保健)

戸田隆夫

# 日本のGDP 実質戦後最大の下落



出典：日本経済新聞

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO62699240X10C20A8MM0000/>

(2020/08/21)

# 実質成長率（4-6月期）（四半期）

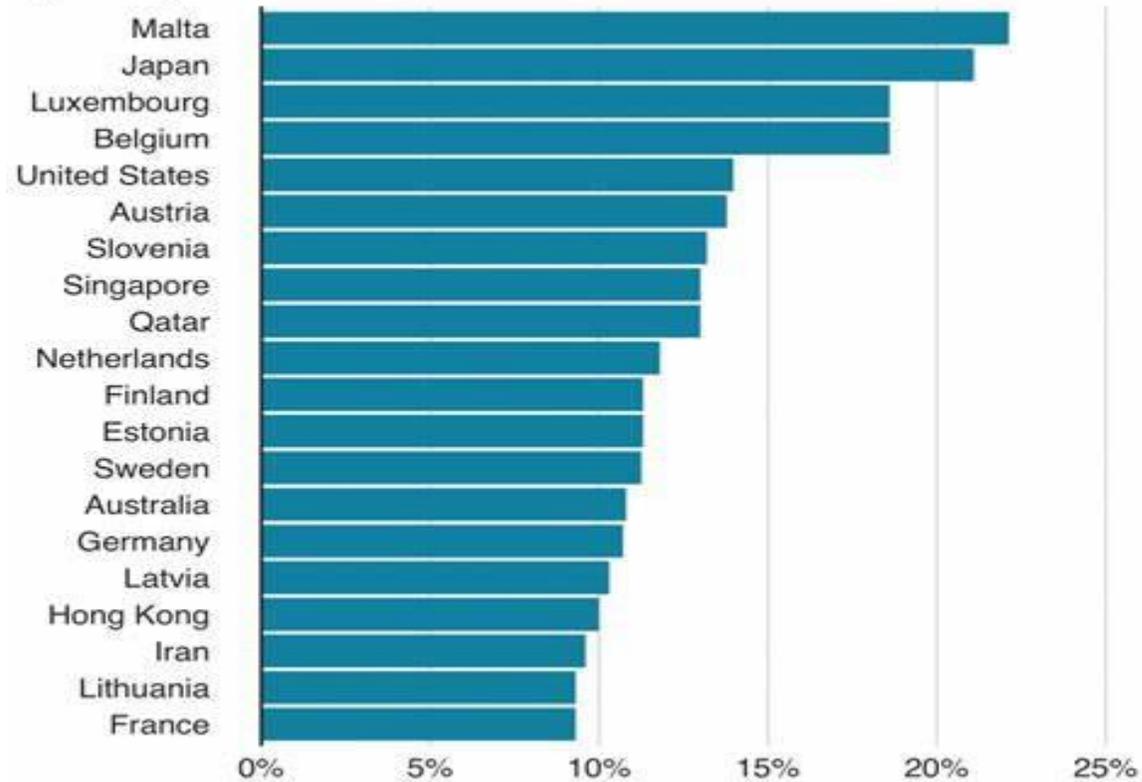
## 主要国経済：1割縮小

中国	3.2%	タイ	-12.2
ベトナム	0.4	カナダ	-13.5
台湾	-0.6	イタリア	-17.3
韓国	-3.0	フランス	-19.0
ロシア	-8.5	メキシコ	-19.0
米国	-9.5	英国	-21.7
日本	-9.9	スペイン	-22.1
ドイツ	-11.7		

# コロナ対策費 対GDP比

## Top 20 coronavirus spending packages

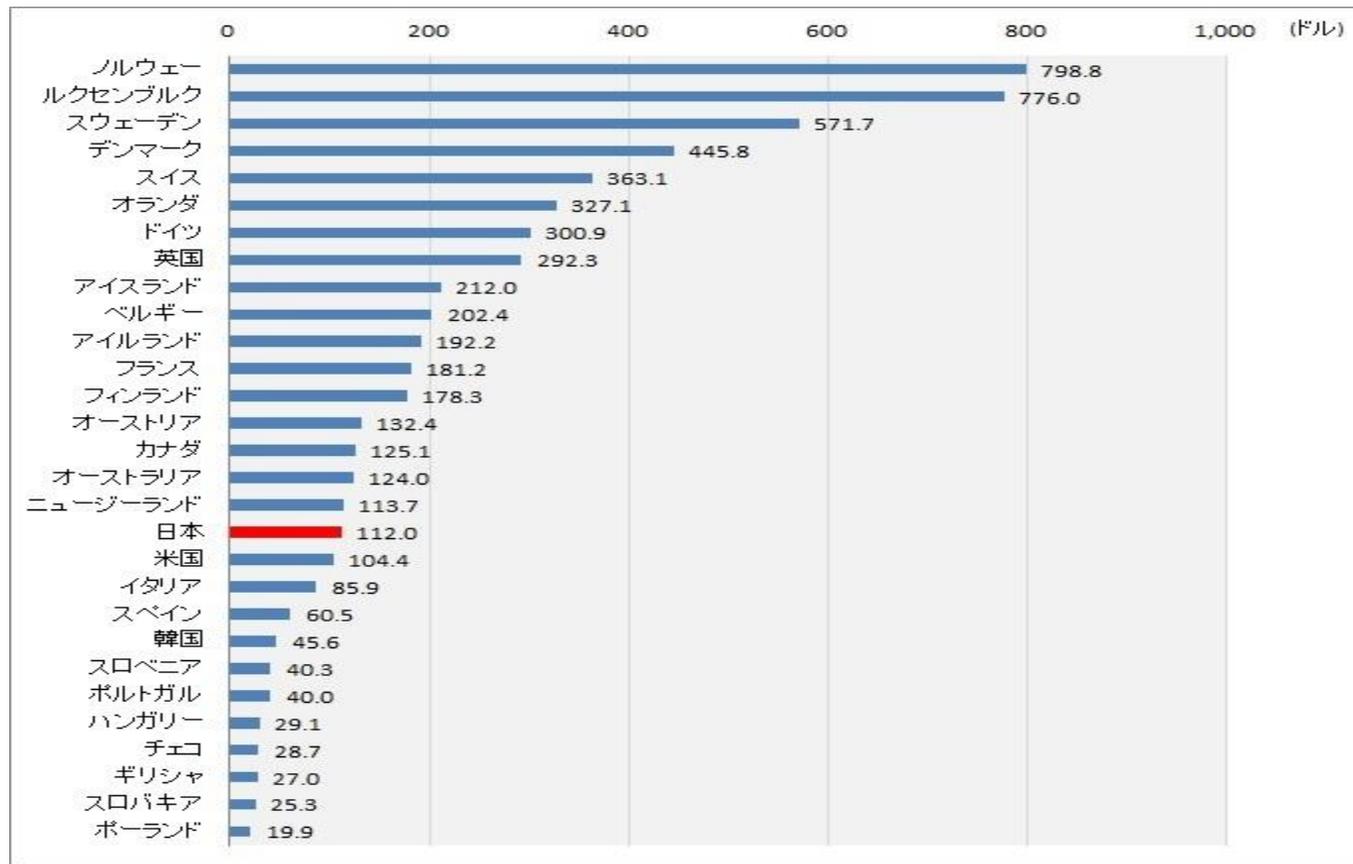
Spending as % of GDP



Source: Ceyhun Elgin

BBC

# D A C 諸国における O D A 実績 国民一人当たりの負担額 (2018年)



# 日本のODAにおける保健分野の協力

総額：約12億ドル (出典1)

(2019年、米国の10分の1、英国の3分の1、ゲイツ財団の30%)

保健分野の協力の占める比率：3.0% (出典2)

(2018年、DAC平均11.1%の半分以下)

出典1：IHMEのFinancing Global Healthの2019データ (<https://vizhub.healthdata.org/fgh/>)

出典2：OECD- Aid (ODA) by sector and donor [DAC5] (<https://stats.oecd.org/Index.aspx?datasetcode=TABLE5>)

# 日本のODA（二国間協力）における保健分野の協力の成果（拠点整備の例）

トップレフェラル等の病院の設立/能力強化/人財育成  
→累計 29か国37箇所以上

感染症、公衆衛生対策の拠点の設立/能力強化/人財育成  
→累計 8か国10箇所以上

★これらの病院/拠点と人財が、コロナ対策の中核として活躍

# 日本による 「能動的」国際保健外交の軌跡

- 1979年 東京サミット 健康問題がG7の公式声明に
- 1997年 デンバーサミット 橋本寄生虫イニシアティブ
- 1998年 バーミンガムサミット 同上
- 2000年 九州沖縄サミット アフリカ首脳招致、感染症対策が主要議題
- 2002年 世界エイズ・結核・マラリア対策基金創設
- 2008年 グローバルヘルスサミット/ 洞爺湖サミット
- 2013年 Global Health Innovative Technology (GHIT) Fund創設  
安倍総理のランセット投稿「我が国の国際保健外交戦略」
- 2015年 SDGsにUHC挿入
- 2016年 国際保健のためのG7伊勢志摩ビジョン  
(第一項：公衆衛生上の緊急事態への対応強化のための国際保健枠組みの強化)
- 2017年 UHCに関するグローバルフォーラム  
麻生財務大臣のランセット投稿「UHCのために財務省が果たす重要な役割」
- 2019年 国連「UHCハイレベル会合」、「UHC政治宣言」

# 強靱な保健システム構築のために 生きる日本の経験値と教訓（要検証）

- 高度成長前に達成したUHC  
(貧しい中での工夫、母子手帳、社会の安定に寄与した所得の再分配。保健所制度の劣化、高度医療の導入、高齢者医療、診療報酬等に関し教訓もあり。)
- 高齢化社会に関する課題先進国として試行錯誤  
(地域統合ケア、ケアマネ制度等)
- 細やかな医療・臨床サービスの実践  
(病院カイゼン、チーム医療)
- 先進高度医療技術、検査技術等の開発、適用

# COVID-19による 単位人口当たりの死亡者数と高齢化

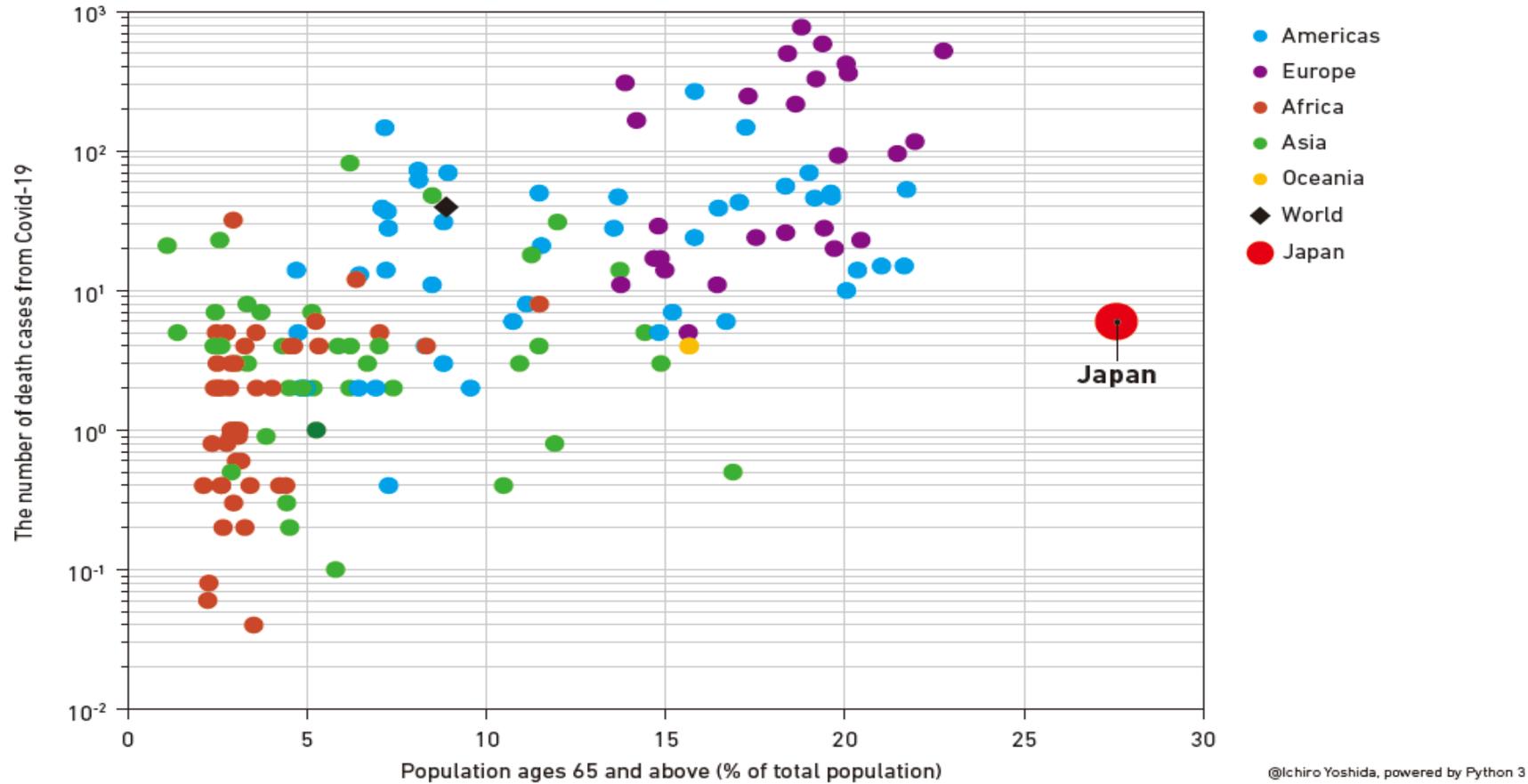


Figure 4. The association between the number of death cases from Covid-19 and aging rate

source: WORLDOMETER COVID-19 CORONAVIRUS PANDEMIC, accessed on May 17, 2020. <https://www.worldometers.info/coronavirus/> ;  
The World Bank Data. accessed on May 23, 2020. <https://data.worldbank.org/indicator/SP.POP.65UP.TO.ZS>

# まとめ（日本の役割）

- ・ 能動的国際保健外交の継続
- ・ 保健分野の国際協力の規模拡大と戦略的展開  
（プロジェクト単位の事業から、グローバル展開によるインパクトを目指す）
- ・ 保健分野以外の協力における健康主流化  
（水・衛生、食・栄養、教育のみならず、運輸通信他経済インフラも）
- ・ 自由と民主主義を共通の価値とする国との連携の強化  
（コロナ禍で、今日的意義を増す「人間の安全保障」理念を引き続き重視）

→グローバル・ヘルス・ガバナンスにおけるリーダーシップの発揮

No one is safe until everyone is safe.  
ご清聴ありがとうございました！